

九条だより

第 176 号

北広島九条の会 2022・08・01 発行
事務局 梁川彰博 (ヤガワ アキヒロ)
TEL・FAX 375-9600
メール kitahiro-9jounokai@live.jp
ホームページ www.kitahiro9.org

◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇

8月9日(火)に「平和の鐘つき」を行います。

8月9日 午前11時から、達磨寺さんの境内にて

長崎被爆の11時7分に黙とう、その後お一人ずつ鐘を
つかせていただきます。

この行事は、例年新婦人北広島支部さんが平和行事として達磨寺さんをお願いして行っているものです。今年は新婦人さんのご了解をいただき、ご一緒させてもらうことになりました。

- *この日の「9の日」宣伝署名は予定通り、午後4時 JR 駅西口で行います。
- *「戦争遺跡を巡るバスツアー」はコロナ感染の広がりで見合わせ中止としました。

○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○

参院選終わる。「改憲」よりも国民の暮らしの支援を。

改憲派(自民公明+維新+国民)が引き続き3分の2を占めたことにより、改憲に向けての国会の議論が一気に加速されそうです。1人区での「野党共闘」の勝利は、青森、長野、沖縄にとどまりました。

加えて投票日直前の7月8日に「安倍元首相銃撃殺害事件」が起こり、これが選挙結果に大きな影響をもたらしました。私たちは安倍氏が無法な暴挙によって亡くなられたことに心から哀悼の意を表するものです。同時にそのことと氏に対する政治的評価は別であると考えます。「安倍氏の遺志を継げ」と政府与党がすすめる「秋の国葬」には賛成するわけにはいきません。

○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○

<9月例会のお知らせ> 9月3日(土)午後2時 住民センター
本庄十喜さん 「盧溝橋事件85年 今日中戦争を考える」

☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆

新型コロナの感染は第7波です。かつてないスピードで広がっています。しっかり感染対策を！

☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆

ロシア・プーチンはいますぐウクライナ侵略をやめろ！

国連憲章と国際人道法のもと「軍事対軍事」でなく国際社会の圧倒的な包囲網をさらに強めましょう。

「盧溝橋事件から 85 年 第 37 回 7.7 平和集会」

“憲法 9 条は無力なのか” ロシアによるウクライナ侵攻と日本国憲法

これから「3 年間の改憲阻止の闘いがはじまる」

清末愛砂 室蘭工業大学大学院教授が講演

参院選が最終盤を迎えた 7 月 7 日、札幌市で『7・7 平和集会』が行われました。

清末さんは、最初に今ロシアによるウクライナ侵攻が長期化し、甚大な被害が生まれていることに触れ、「防衛や自衛の名の下で行われるものの危うさ」があり、国連憲章やジュネーブ議定書などの数々の国際法違反があると指摘しました。そして今これに便乗して政府与党や改憲野党から「国民を守るために 9 条改憲が必要」という主張が声高に叫ばれているが、これは立憲主義を全く理解していないもので「公権力は 9 条によって縛られている」ことを無視していると話されました。

9 条が支えてきた現実的な効果は、①平和な日常があること・戦争へのかかわりできるだけ避ける、②民主主義・文民による統治、③経済的な効果・防衛費を抑えることで他の分野に予算をかけることが可能、④対外的な意味での信頼関係の醸成（外交）、にありその意義を確認されました。アフガニスタンで活躍された中村哲さんは「戦争しない国としての信頼」があると言っておられたことを紹介されました。

「改憲」の動きは、今回の参院選後、衆議院が解散されない限り次の参院選まで国政選挙がないことから一気に加速され、日本国憲法施行以後の「最大の危機」をむかえると清末さんは警告しました。

自民党が目論む 9 条への「自衛隊明記」は、単に付け加えるだけにはならない。拡大解釈への道がさらに開かれる、「後法優位」で 9 条は死文化され、すべてが軍事優先の社会へ、「自衛」「防衛」「国防」で対外的な緊張が高まっていくことになるだろう。「反撃能力」と言い換えても「敵基地攻撃能力」は先制攻撃で敵の領空を侵犯するもの、「（自衛官が）お国のために立派に死ぬる」ことを是とする社会になる。

最後に清末さんは、防衛費倍化の道は私たちの日常生活のひっ迫を招き、平和的生存権を否定するものであることを説明し、9 条がリアルにもたらしてきた<利益>をアピールしよう、と訴えました。これからの 3 年間は「改憲阻止」の闘いとなるが、「ゆるやかなまとまり、ゆるやかな連帯でつながる道を模索する」、個人のつながりを大事にする、そして参加しやすい、わかりやすい工夫を考えようと話を結びました。

☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆

まなび座から 8 月 20 日（土）午前 10 時、広葉交流センター

テキスト 本田由紀著『「日本」ってどんな国？』ちくまプリマー新書